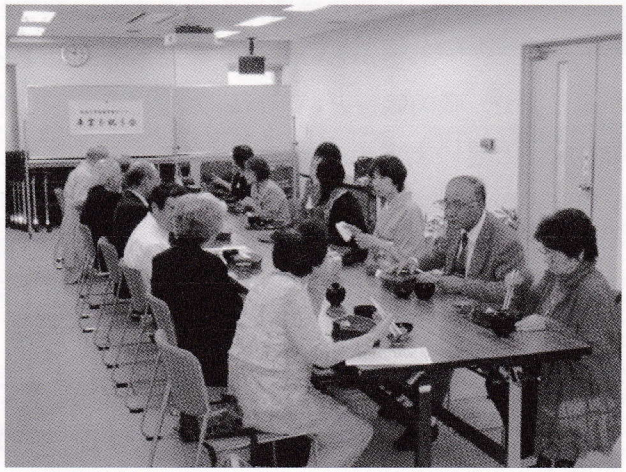
たたら

第　2　号
島根学習センター内
島根同窓会
2013年11月発行

平成25年度

第1学期学位記授与・卒業式・祝う会を開催



9月29日午前11時30分より、平成25年第1学期学位記授与・卒業式を、島根学習センター主催にて開催された。従来は午後に一括して学位記授与式、入学者の集い、茶話会の開催でしたが、短時間のため過密なスケジュールとなり、卒業生・入学生との意思疎通が不十分であったことから、今年度より学位記授与・卒業式は午前中に開催し、その後に同窓会主催にて昼食を取りながら卒業生を囲み祝う会を開催した。

学位記授与式は午前11時30分から12時30分、卒業を祝う会は12時30分から午後1時30分まで、茶話会の受付は同窓会が担当したことで、当日はゆとりを持って運営することができた。勿論この取り組みに際しては、島根学習センター、同窓会、学友会が事前に打合せを行って準備よく取り組んだ。

初めて開催しました卒業を祝う会には、7人の卒業生、同窓会員、足立所長の16人が出席し、卒業に至るまでの学生生活を話し合った。特に女性の場合は主婦、母親、社会人としての役目があり、男性に比べて学生生活を送ることに、負担がかかり大変であった。半面、単位が終了し卒業が確定したとき夫や家族の祝福を受けた喜びなど、それぞれが感慨深く思い出を語り合った。

島根同窓会ができて初の学位記授与式となり、学位記授与者のみならず、ご家族、卒業生が参列した。来賓として同窓会長が挨拶(別項)を行い、卒業に至るまでの努力とご家族の協力、援助の労に賞賛するとともに、島根同窓会への入会を呼びかけた。

今回の取り組みで感じたことは、卒業生は放送大学を母校とすることが希薄ではないか。特に後輩の学位記授与式に参列し、卒業を目指して頑張ってきた後輩たちに対し、ともに祝福する気持ちが必要ではないだろうか？3月に開催される2学期の学位記授与式にはご案内しますので、是非とも多数の卒業生が参加されることを切に願う次第です。

(報告竹下)

放送大学創立30周年記念講演会

講師に御厨　貴先生を招き開催

日時　10月5日(土)
会場　島根学習センター

今日は、創立30周年記念ということですが、放送大学が出来た頃から日本の政治がどのように変わって来たのか。私が専攻しているのは近代日本の政治外交史という分野です。

さあ、その日本政治外交史という時期区分は、私は幕末維新期、つまり1868年に明治維新になりますが、そこから現在までです。その中で、どこで区切りをつけるかというと、今でもそれは1945年です。つまり日本の敗戦で、その前と後で、戦前戦後という言い方をします。この言い方には皆さんの多くはあまり違和感をお持ちにならないと思います。

しかし、私が今教えている若い学生諸君はもう1990年代生まれです。そういう学生たちと日本の政治外交史を議論するのはかなり骨が折れる。彼らが意識しているのは、最初の安倍さんから1年ごとに変わる総理大臣の時代が、彼らにとっての政治の現イメージです。

そのことを政治が劣化していると言ったところで、彼らには日本として、政治がまあ取り組まれているのであれば、それをどうして先生たちの世代、そこまで政治が劣化していると言うのが全くわからない。だから、皆さんも注意して欲しいのですが、平成生まれの人たちを僕は平成君と呼びます。平成君と話をする時は、以前の昭和については余程注意をしないと、多分同じことを話してもまったく受け止め方が違う。かなり深刻な問題です。

今、戦後という話をしましたが、戦後が終わるということは1955年に当時の生活白書が最初に戦後は終わったと表現した。つまり、復興の時代は終わったのだからこれからは新しい時代だと。次に戦後が使われたのは佐藤内閣です。佐藤さんは沖縄の返還なくして戦後は終わらないと言った。それに続いて戦後を終わらせようと明確に言ったのは中曽根さんだった。これには、その後ろに憲法問題があった。憲法改正をやらない限り戦後は終わらないという認識があった。これが、その後も続いて行くことになる。そして、戦後を終わらせよう、あるいは戦後をもう少し短く言うならば、占領時代を終わらせようという。

さらに戦後を終わらせようとつないで来るが、それをはっきり名言したのは、今の安倍さんです。安倍さんは終わらなかった理由が判っている。それは価値の問題と思っている。戦後的価値あるいは占領憲法を認めてしまったこの国のだらしなさ。それを何とかしたいと思っている。

現在の政権で安倍さんが価値の問題、憲法改正につながるイデオロギーの問題、さらにはいわゆる外交安全保障の問題について、かなり今までの日本のやり方を変えたいと思っているのは非常にはっきりしている。それをいつ具体的な政治課題

にあげるかどうかは、もう少しあとでお話しますが、そういう気持ちでいる。そのことは参議院選挙の前から、つまり衆議院選挙で彼が政権を取ってからこの半年間、かなりはっきりしている。

戦前の区切りのつけ方は非常に簡単で、戦前は帝国主義戦争の時代ですから戦争で区切りがつく。日清戦争、日露戦争、第一次世界大戦、そしてその後は15年戦争。これは政治経済社会、全部がそうです。

ところが戦後は戦争がない。戦後は帝国主義戦争が終わったことにより戦争はないが、逆に戦時体制とか戦争の時代であるとかを言うと、常に第二次世界大戦が思い出される。だからお判りになると思いますが、アジアとりわけ中国や朝鮮半島全体と言ってもいいと思いますが、ここでは常にその意味で第二次大戦カードです。日米戦争カード、日中戦争カードを持っている。これは賠償が終わろうが終わるまいが全然変わらない。ところが戦後日本は四つの島に戻った瞬間に、それ以前それ以後その後は実は何があってもそこに戻って行く、そういう雰囲気になっている。だから戦後は終わらない。

賠償問題はもう完了しているが、確かにアジアに関して言うならば、中国や韓国以外のアジアへの賠償はかなり日本の場合進めました。60年代末、70年代から80年代にかけて海外への日本の企業の進出が始まり、どんどん日本人が外に出て行った。その時の日本人の態度は決してよくなかった。彼らが現地へ行った時に現地への配慮が無かった。戦後史、戦中史を学んでないわけですから当然で、これがどんどん広がっているわけです。こういうことがあってそれで戦後が終わっていない。

認識のギャップがあることがわかった。したがってその辺から歴史教科書の問題が起きて、70年代、80年代にもう一度戦争責任、場合によっては天皇の戦争責任の問題が蒸し返されてきた。これを日本の政府はあまり重視しなかった。この国は本当に反省していないというところが常にある。その問題と絡まって出てくるのが、あの靖国の参拝問題とA級戦犯を合祀してしまったという問題を、どう見るかという問題につながってくる。この問題はかなり大きな問題である。それをその後、今言ったような形で覆すことになるとこれは戦後体制そのものに大きな亀裂を生じさせることになる。今の政治というのは正にそこに差し掛かってきている。

安倍さんは確かにアベノミクスで上手くやりました。これは安倍さんの戦略的勝利だと判断します。誰もが安倍さんが経済問題で勝負をするとは思わなかった。それを初めて安倍さんは今回正面に据えた。これは多くの人にとって驚きでありました。これは与野党を通じて、経済の湿り具合からなんとか脱したいという空気を、安倍さんは吸い取った。それを自由民主党の大勝利のつなげて行ったということになろうかと思います。

政治は再生という時に考えないといけないのは、この安倍さんのやり方にいくつかのあり方が本当に政治の再生につながるのか、ということです。ではそのアベノミクスが何時まで続くのか、みんな議論していて、上手く行ってもそう続かないだろう。しかもその手法は実に小泉純一郎とそっくりで、つまり小泉純一郎という人も、あっというようなことを最初に言う。このやり方、これは小泉さんのやり

方と極めて似ている。こんどもそれと非常に良く似ている。アベノミクスという舞台を作って、それに賛成か反対か言わせてしまった。もうこの舞台というのは変わりようがない。小泉効果と同じことを安倍さんがやったということで、これは勝利の方程式でいうとかなり現在のところは上手く行っている。

ただしもう一方の問題を忘れてはいけない。常に安倍さんにはもう一つの、つまり本来的にはこれをやりたいという。何度も言いますが、価値の問題、イデオロギーの問題、あるいは対外主権の問題が常にあるわけです。

しかし、それが難しいところです。アベノミクスの問題というのは、やってみたら経済状況がコロット変わって失敗するかもしれない。しかし、こちら側の問題もある。イデオロギーの問題です。自民党は今、圧倒的な人数を持っている。

今、安倍さんが一番困っているのは、衆議院で300という数と、参議院でも勝ったことの二つです。昔、私が40代になったころに小沢一郎に会った時のこと、小沢一郎ははっきり言いました。小沢さんの政治改革はまだ終わっていないと思いますが、ただ彼が盛んに言っていたのは、この20年、政治が悪くなったということは盛んに言っていました。とにかくアベノミクスで設定してしまったものが、今後どうなるのかということと、それからよく言われている官高低党、政高党底とも言いますが、官邸がやたらと元気であるのに比べて党がやせ細っている事態。これは小泉さんがかなり推進し、第一次安倍政権がさらに推進したこと。第一次安倍政権は官邸に政治家である補佐官をやたらと作って、それが各省の大臣と揉め事を起こして、結果的には官邸主導が上手く行かなかった。その結果、まったく動かなくなった。これが、また安倍政権の今後のあり方を決定的に左右する。オリンピックは7年後で、2020年、7という数字は極めて悩ましい数字です。これが10だとたぶん安倍さんもそのころ総理をやっているとは思わないが、7だとやってみたいと思う数字です。

今日の話をまとめてみますと、今の自民党政権は、前の民主党政権が黙っていたものを全部発言する。やたらと民主党政権以上に有識者会議を作る、こういう状況で、つんのめるように走っている。今までの自民党政権でしたら、一人が倒れたら次が立つという派閥でして、自民党の部会もそうでした。そういう受け皿がかなり強くあったので出来たが、今回はオールスターキャストで全員が出ているため、次の受け皿がない。

最後に劣化状況というのは、基本的には受け皿がないということです。ただ前の時よりは多少先が見えるように走り始めたという点で、劣化3位まで行ったのが、劣化2位までに戻った感がある。安倍さんに戦後70年という話をしたら、戦後70年の宣言を出したいと話していたが、これが安倍流の宣言が出るとなると、世界に戦争をするような宣言になるといけないという気がしています。ご清聴有難うございました。

御厨先生を囲み交流会を開催

10月5日(土)午後4時より、松江市内ホテル宍道湖創立30周年記念事業の開催に併せて、同窓会主催、学習センター、学友会共催にて、講師を囲み卒業生、在学生24人が参加しました。

交流会は、竹下同窓会長の司会により、今日の政治情勢に対する疑問や、講師への質問も限られた時間ですが積極的に出して欲しいと、交流会の開催趣旨を話し開始しました。

何故二大政党で政権交代できない

【増原さん】政治の話は中々本音が聞けないので、大変興味が有りました。質問ですが、民主党が政権をとった時に、これで政権交代が可能な二大政党の時代が日本にも来たと、大変期待をしましたが夢のまた夢でした。日本では何故アメリカやイギリスのような二大政党で政権交代できないのでしょうか。その原因はなんでしょうか。

《御厨先生》民主党に統治能力があったとしてもたぶん駄目でした。それは、政権交代が予定されている国は必ず、政権が変わるとき移行措置をする。特にイギリスでは行っている。それでないと政権の移行がスムースに行かない。

日本の場合は、今までが上手く行っていたのが、自由民主党という一つの政党の中の、派閥からある派閥にかわります。いちいち官僚まで交えて議論しなくても行けた。いわゆる擬似政権交代でした。しかし、民主党の場合は殆ど政権を握ったことのない人たちですから、当然のことながら政治教育が必要であった。

ところが、民主党は笠にかかって自民党・与党苛めをして、次は私の政権だと言い、歴史的な大敗を最終的に被る訳ですが、自民党の方は、どんなことがあっても民主党に統治の情報を与えない。だから私が最初に民主党の人たちに言ったのは、少なくとも外交政策は変えるな、外交は何があるか判らない。そうでないと政権は持ちません、と示唆したが、役割が全く180度変わるという認識があの党にはなかった。とにかく時間という要素を政権交代に入れる、これが大変重要なことです。右から左に革命的に変わるということは、絶対安定した政権交代では有り得ない。今回の場合は双方とも余裕が無く変わった。ただ、今回の政権交代は全く意味が無かったかいうと、そうではなく、政権担当をした民主党の人たちと最近話していると、自分達の何が悪かったか気付き始めている。やはり統治を経験すると、改善すると思います。次の政権は民主党がなるか判りませんけど、私は安倍さんがあれだけ強いと、逆にそれを批判する政党が出て来ないと駄目、私は出て来ると思う。

知識を共有して話合の状況を作るには

【貴谷さん】卒業生で、政治学修士を修了して、今、市議会議員をしていますが、放送大学で政治学を学んで良かったなと思います。放送大学で色々な方に、継ぎ接ぎの政治は駄目だと、地方自治体では反省も出ていますが、議会ではまだそれが反映されていない。それはやはりメディアの問題だと思いますが、知識を共有して話し合うという状況を作るにはどうしたら良いのでしょうか。

《御厨先生》難しいですね、それも地域によると思います。それについて一般的な回答は中々出ないと思う。問題意識を持てばいい方で、ないという前提で先ず集まることからスタートとなる。つまり、問題は何かを発見するところから話しをすることです。これこれについてやりますからと言っても多分駄目です。僕は2年前に卒業した小学校で「ようこそ先輩」という番組で、40 人の生徒に一人一党の政党をつくろうと提案したところ、担任は政党を作ろうなんていうと、いろんなことを言われるのではないか難色を示した。僕は先生に対して、政治には裏も有るのだからと生徒の買収工作もありと説得した。1週間後の結果どうなったかというと、実に面白かったのは、その中で一番雄弁な生徒が立って、自分は将来政治家になりたいと言って頑張って主張し、給食のパンで買収し、それに掛けた生徒も結構いたが、実はこれが敗退した。強いことを言うような人がなったら、それに従わなければならないので自分たちは嫌だ。日本的な政党形成になったのです。

半年後、もう一度話しを聞く機会があって聞いたら、生徒は実際に投票権が出来たら投票に行くと言っていた。政治があんなに面白いものだとは思わなかった。大人が話しているのを見ていたら政治はつまらないと思っていたが、作ってみると面白いという。だから、一人1党で始める政党ごっこみたいなものを、小学校の教育の中に入れると良いのですが。

来年の今頃はどんな状況

【石飛さん】卒業生です。来年の今頃どういう状況になっているのか、先生のお考えをお聞かせ下さい。

《御厨先生》正直いって来年の今頃どうなっていかはわからない。その時までにアベノミクスの成長戦略が上手く行っていれば、これで増税しても日本経済の体質は改善されたという話になるのか、逆に今言われているように、どの地方に行って、中小企業の方とお話をする時に、最初に質問される方は、景気は本当に良くなりますかと言われる。

私は政治の話をしに来たといっても、とにかく経済は良くなりますかと言われる。今みたいだったら、自分たちは生きて行けないと毎回言われる。私は地方では、かなり難しいのではないかと思う。地域に行くまでにかなり時間がかかる。大きいところはすぐに反映されるが、地域まで行くかどうかが一つと、今の政権が今までと違うのは、企業に向って給料を上げろと言っている。言われた方はみんな自分に言われたとも思わず、政府が言っている位の話です。これは言いっぱなしです。今の質問に対するお答で言えば、半々で、1年経ってアベノミクスの成長戦略で、上手く行ったという可能性は少ないのではないかと思う。

政治家の教育は

【石倉さん】民主党の野田さんは、若い時からしっかり教育されて総理大臣になられたと思うのですが、今の政治家の教育はどうなっていますか？

私も教員ですので先程先生が言われた「ようこそ先輩」ですが、先生の放送が有ったせいか、そういった学級会などで自分の気持ちを言うということが最近流行出して来ているので、将来は明るいと思うのですが。

《御厨先生》政治が基本的に面白いものだと何処かで判ってもらえないと。政治家を創ることは政治を